

# 地域とともに ～井上内科クリニックからのおたより～

訪問診療の医師が語る 在宅療養の本当の意味と家族のかたち



## 在宅医療は“暮らしを支える手段”

—みんなのカフェで語られた本音と温もり—

花池公民館に集まった地域の花池老人会の皆さんが、輪になって座り、ニックネームで呼び合う温かい空気の中、訪問診療に携わる井上院長を囲んで「みんなのカフェ形式」での語らいが始まりました。テーマは「在宅医療」。けれど堅苦しい講義ではなく、まるでお茶を飲みながら話すように、笑いあいの、みんなの生活に寄り添った時間でした。

井上院長はこう語ります。「在宅医療は“目的”ではありません。より良い暮らしを支える“手段”なんです。私たち医師は、あくまで脇役。主役は患者さんとご家族です」その言葉に、参加者たちの表情が和らいでいきました。

入院経験のある方からは、「病院の食事は美味しくなかった」「退院したときのほうがホッとした」といった本音も飛び出しました。それに対し井上院長は、「そう感じられることこそ、家が自分にとって安心できる場所だという証拠ですね」と微笑みます。

話題は「医療の継続は誰が決めるのか？」へと移りました。「本人が決める」「医師の意見に従う」——それぞれに意見がありましたが、院長は「どちらも正解です。ただし、どうしてほしいのか、どんな最期を迎えたいのかは、できるだけ早く伝えておいてほしい。それが“本人の意思”を生かすことにつながります」と語りました。

在宅介護の経験を持つ参加者からは、「訪問診療や訪問看護のおかげで自宅で過ごせた」「多職種の支援があったかった」「病院では待たされて1分診療だが、在宅医師は自宅でゆっくり話を聞いてくれる」といった声もありました。井上院長は「まさにチームで支える医療ですね」と応じ、地域連携の重要性を改めて強調しました。

さらに、「認知症は病気ですか？」という問いには、「家族が笑って対応できるなら、病気と思わなくてもいいと思います。大事なのは“病名”よりも“その人らしさ”です。病人としてではなく、一人の人として接することが一番の支えです」と答えました。

### Report

## 講演会 報告書

<花池公民館>

2025

10  
/ 31  
(FRI)



▲井上内科クリニック 井上祥院長

こうしたやり取りの中で、参加者の表情はどんどん明るくなっていきました。難しいテーマを語り合う場でありながら、そこには優しさと安心感が漂っていました。その後も質問は尽きず、井上院長への質問が次々と寄せられ、制限時間を大幅にオーバーするほどの盛り上がりを見せました。しかし次の診療が待っており、院長は笑顔を残して自宅へ待つ療養者のもとへと向かわれました。

在宅医療は、延命のためだけではなく、ウェルビーイング（心身の幸福）を支えるための手段です。医師の言葉は、静かに、しかし確かに参加者の心に響いていました。今回の対話を通じて、参加者の多くが「在宅医療」という言葉を身近に感じ、自分や家族のこれからの暮らしを考えるきっかけになったようです。医療が“病を治す”だけのものではなく、“その人らしい生き方を支える”ものであること——それを実感できた温かなひとときでした。

講演会 お問合せ（地域医療介護連携室）

医療法人 翔樹会 井上内科クリニック

〒494-0001 愛知県一宮市開明字東沼85

TEL 0586-64-7410/FAX 0586-64-1752

Email : info@heartgyutto.jp

